

1 単元名 がっこうだいすき
～ぼくのわたしのつうがくろ～

2 授業構成

(1) 教師と教材

本単元は、新学習指導要領の次の内容に位置づけられている。

- (1) 学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活ができるようにするとともに、通学路の様子やその安全を守っている人々などに関心をもち、安全な登下校ができるようにする。

本単元では、通学路そのものを見つめる活動を展開し、通学路の様子やその安全を守っている人々などに関心をもち、安全な登下校ができるようにすることをねらっている。徒歩、バス、JR を使って、様々な地域から各自で通ってくる子どもたちに、普段何気なく通っている通学路をもっと丁寧に見つめさせたいと考えた。今まで気づかなかった通学路にある様々な自然、人、社会とのかかわりを通して、通学路は自分たちの生活の場であるという意識をもたせることができるはずである。安全な登下校ができることを重視し、通学路にある安全を守る施設や人々に視点をあてて、学習を進めていく。これらの施設や人々は、子どもたちにとって存在そのものがごく当たり前で、なぜそこにあるのかを考えたり、自分から積極的に知ろうとしたりしていないのが現状である。この単元を通して、なぜ今、安全に登下校ができているのかを考えさせ、生活に自ら主体的にかかわれる子どもたちを育てていきたいと考える。

本時は、自分の通学路について調べた後の活動になる。たくさんの調べたものの中から安全に関するものを取り上げ、考えていく中で安全への意識を高めていきたい。また、子どもたちがそれぞれ気づいたことを関連づけ、より質の高い気づきとなるよう、子ども同士のかかわりを意識した「見つける」「比べる」などの活動を意図的に取り入れていきたい。

(2) 子どもと教師

本校の生活科では、「かかわる力」を育てたい力として学習活動に取り組んでいる。特に、「自分なりの課題を見つけ、主体的にかかわろうとする力」「かかわりの中から気づきを広げ、深めようとする力」さらに「自己の願いや思いを豊かにし、生活に生かす力」を育てたいと考える。

本学級の児童は、「がっこうだいすき」の単元で1年生の友達や先生、上級生と遊んだり話したりすることを通して、進んで人とかかわることを学んできた。また、5月には附属幼稚園の年長児と尚徳の森の遊具で遊んだり、校庭でグループ遊びをしたりして交流を行った。一緒に遊ぶ中で、年長児を気遣いながらかかわろうとする姿が見られた。

本時はまず、安全に登下校することにつながる「もの」「人」について子どもたちに考えさせていきたい。発表をし合う中で、自分の通学路と比べ、共通点や相違点があることにも気づかせ、その後、特に「子どもかけこみ110番」と「子ども見守りボランティア」を取り上げる。「子どもかけこみ110番」や「見守りボランティア」は、保護者の方もおられ、子どもたちにとって身近な存在だと考えられる。「子どもかけこみ110番」はどんなところがあり、何のためにあるのか、「見守りボランティア」は、どんな方がされているのかなどを考えさせていく。そして、登下校中も多くの人々に見守られていることに気づかせるとともに、感謝の気持ちをもって積極的

にかかわっていこうとする態度を養いたい。さらに、自分たち自身で安全に気をつけて登下校しようとする気持ちを高めたいと考える。

(3) 子どもと教材

本時の活動では、自分の通学路にあったもののの中から、安全に関する「もの」や「人」について考えさせる。道路標識や横断歩道、子どもかけこみ110番、子ども見守りボランティア、守衛さんなどが出てくると思われる。発表し合う中で、自分の通学路にも共通してあるもの、人について考えさせていく。今回は特に、「子どもかけこみ110番」と「子ども見守りボランティア」について取り上げ、どこにあるのか、なぜ安全に関係があるのかなど、子どもたちの言葉で表現させ、気づきを深めていきたい。学級の中にも、子どもかけこみ110番や子ども見守りボランティアに参加している家庭がたくさんある。5月に開催された路線別懇談会の様子を見せながら、多くの人が参加していることを知らせたい。また、子ども見守りボランティアの方の思いを聞くことにより、安全に登下校できるようにたくさんの人に見守られていることを改めて実感することができると考える。しかし、この学習がたくさんの人に見守られているという安心感だけで終わってはいけない。危険なことがあるからこそ、たくさんの人が見守り、協力しているということ、だからこそ自分たち一人一人が自覚をもって安全に登下校をしていくことの大切さにも気づかせていきたい。

3 単元の目標

- ・自分の通学路に興味をもち、自分たちの安全を守っている施設や人々に進んでかかわろうとすることができる。 [関心・意欲・態度]
- ・通学路の安全を守っている施設や人々の気持ちについてわかったことを自分なりの思いや願いをもって表現するとともに、通学路の通行の仕方を考え、安全に登下校ができる。 [思考・表現]
- ・自分たちの通学路の安全を守っている施設や人々の存在を知り、安全に気をつけ登下校することの大切さに気づくことができる。 [気づき]

4 学習計画 全7時間

第1次 通学路にはどんなものがあるだろう (4)

- ・通学路を歩いてみよう②
- ・見つけたものを伝えよう①
- ・自分の通学路で見つけたものを伝え合おう①

第2次 安全な通学路 (3)

- ・通学路の安全について考えよう① 本時
- ・安全に登下校について話し合おう①
- ・学校の安全について考えよう①
- ・登下校でお世話になっている人に手紙を書こう。(国①)

5 本時の学習について

(1) 本時目標

通学路の安全にかかわるものについて考え、多くの施設や人に守られていることに気づくことができる。

(2) 期待される児童の様相

A 見守りボランティアの方の思いを知り、他にも安全に配慮している施設や人が存在することに気づくとともに、自分も気をつけて登下校しようとする気持ちをもつことができる。

B 見守りボランティアの方の思いを知り，他にも安全に配慮している施設や人が存在することに気づくことができる。

C 見守りボランティアの方の話を聞き，その人の思いに気づくことができる。

(3) 本時の展開 (○教師の意図 ◇全体への支援 ◆個への支援)

学習活動	教師の意図と支援
1 前時の学習を振り返り，安全にかかわるものについて考える。 ・信号機 ・横断歩道 ・道路標識 ・子どもかけこみ110番 ・守衛さん	○自分の通学路で見つけたものの中から，安全にかかわるものを取り上げ，たくさんの施設や人がいることに気づかせる。 ◇見つけたよカードに安全にかかわるものに印をつけさせ，自分の考えを発表しやすいようにする。 ◆なかなか見つけられない児童に対しては，施設と人のどちらにも目が向くような声かけを行う。
つうがくろのあんぜんについてかんがえよう	
2 「子どもかけこみ110番」について考える。 ・どんなところにあるか。 ・なんのためにあるのか。	○店や病院などだけでなく，附属小学校に通っている子どもの家もあることに気づかせ，何のためにあるのかを考えさせる。 ◇実際にステッカーを見せたり，貼ってある場所の写真から見つけさせたりして興味をもたせる。具体的な場面を提示しながら考えさせ，困ったときに助けてもらえる場所だということを確認する。 ◆自分はどんなときに助けてもらいたいのか，具体的な場面も考えさせたい。
3 「子ども見守りボランティア」の役割について考える。 ・いつ ・どこで ・どんな人がしているのか。 ・なんのためにしているのか。	○附属小学校の取り組みで，保護者の方がたくさんかかわってくださっていることを伝え，子どもたちが安全な登下校ができるように見守ってくださっていることに気づかせる。 ◇子どもにとって，「子ども見守りボランティア」という言葉はあまり馴染みがないと思われるので，路線別懇談会があったことやたすきを見せ，確認する。 ◆今まで見守りボランティアの人とかかわったことのない児童に対して，学級児童のお母さんもたくさん参加していることを伝え，身近な存在としてとらえさせたい。
4 子ども見守りボランティアの方の話を聞く。	○どんな思いで立っておられるのか，どんなことに気をつけて登下校したらよいのかを一人一人しっかりと感じ取らせたい。
5 「子ども見守りボランティア」と「子どもかけこみ110番」の感	○話を聞いて，多くの人に自分たちが見守られていることを知り，感謝の気持ちが表現できるよ

想を発表する。	うにしたい。 ◇子ども見守りボランティアの方の話から，子どもかけこみ110番のことも関連づけて，他にも安全に配慮している施設や人がたくさんいることに気づかせる。(C→B) ◇これから子ども見守りボランティアの方に出会った時，自分たちはどんなことができるのかを具体的に考えさせる。(C→B) ◆ボランティアの方に見守られているから安心なのではなく，自分たち自身も安全に気をつけて登下校しなければならないことに気づかせたい。(B→A)
6 本時のまとめをする。	○本時の学習を振り返り，次時ではどんなことに気をつけて登下校をしたらよいのかをみんなで考えることを知らせ，見通しを持って取り組めるようにしたい。